バイク隊も登場
三・一五〇台が対外情宣へ

十月三十日の二十四時間スト、この日組合では自転車隊三、〇〇〇名、バイク隊一五〇名を繰り出して対外情宣とともに、各分会激励をおこなつた。この情宣には外来分会もふくめて、各支部ごとに数隊を編成し、大牟田・荒尾両市、高田町をくまなく行進して、企業整備に反対して闘う組合の実態を市民に訴え、闘争支援を呼びかけ、コース内にある各分会を激励した。

三十八隊が行進

まず、宮浦支部では社宅関係で四隊、外来を含める一隊の五隊を編成して、各隊ごとに上宮、玉川、倉掛、萩野、勝立、七夕、長溝、臼井、野添、天領、小浜など各方面へ行進をおこなつた。

三川支部では十三隊を編成、緑ガ丘発の二隊、大谷、万田、原万田西原、三川、新港、小浜、小川隈野添をベースとする九隊に、外来を主体とした四原、本部前の十三隊である。

各隊はベースを軸に、緑ガ丘から導く銀水へ行進する隊、逆に小浜からはるばる緑ガ丘まで長駆するなど、ほとんど大牟田、荒尾のすみずみまで自転車隊は交錯して行進をつづけた。

四山支部では十一隊を編成、集団社宅関係で九隊、熊本、福岡各外来で二隊をつくつて、四山グラウンド、岩原グラウンド、山吹グラウンド、荒尾労働会館裏広場、金映襲道路を集地として、ほとんど荒尾市内を中心に、八方へ別れて行進をつづけた。

本所支部では五隊に編成、向日葵臼井、宮原、七夕、原、岩津を出発点として、これまた大牟田、荒尾、はては高田町まで足をのばして行進をつづけた。また、各隊ともそのコース内に本所支部を入れての行進をおこなつた。

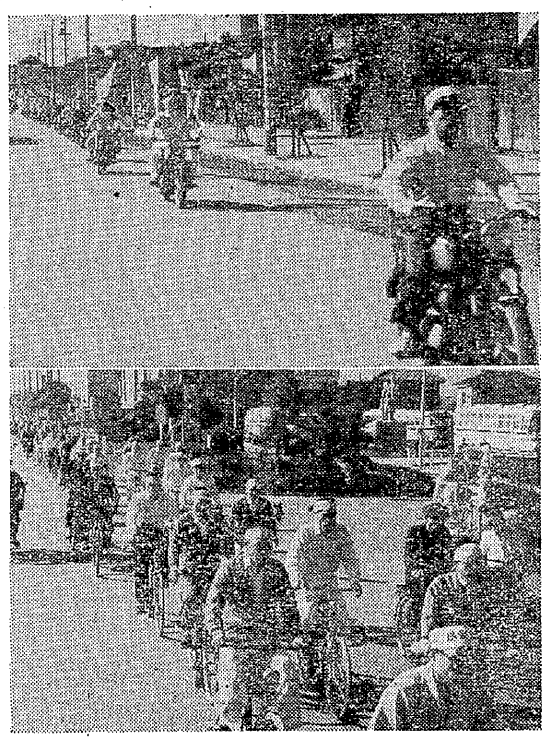
港務支部では三隊に分け、新港、南社宅、平井を出発点として勝立倉掛、大谷、臼井、原万田などを巡回した。

社宅では拍手で迎える

バイク隊もこん回はじめて編成され、約一五〇台が延命公園に集結白川—県境、荒尾駅、緑ガ丘、倉掛—勝立—東新町—銀水社宅—本部と大牟田、荒尾を一周した。

一行はとくに各所に「企業整備反対」「定保条約を打破れ」「勤評反対」など各ノボリを立て、首切り絶対反対のタスキをかけて行進した。

ニュースカー「ばたかせ」「みいけ」は自転車隊、バイク隊の先頭に立ち、マイクを通じて通行人や沿道で行進を見入る人たち、田畑で働く農家の人たちに闘争支援を訴えた。



【上】不知火町を疾走するバイク隊
【下】駅前を通る自転車隊

闘争本部回り (2)
闘争分所で監視
分会員の奉仕で建設

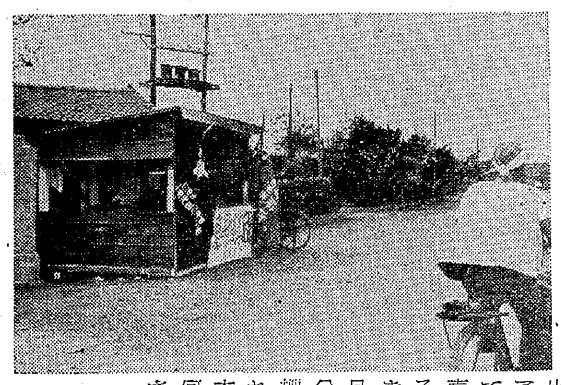
新港社宅入口左側に、デンと闘争員の詰所があり分会旗がたなびいている。

新港地域分会（港務）の闘争本部は、各地域で闘争本部がつくられると同時に、新港クラブ内に設置された。

いま社宅入口につくられているのは、さきの台風でこれも社宅入口に三川・港務支部の地域分会の人たちの手でつくられていたバス停留所が、ふき飛ばされていたのを港務支部新港分会の人たちが、去る二十八日午後四時から三時間がかりで急ごしらえにつくつたものである。

闘争本部がクラブ内にあるため、社宅に出入する人たちの監視が十分でなかつたので、早速これが利用されている。いわば、闘争分所というところだ。

闘争本部にはいちいち名を記した着到板がかけられ、名札を裏返しにして着到するようになつているいまだれが勤務しているかは、これを見れば一目瞭然である。



入口に設けた分所があるため、ここで監視がおこなわれているが、ここに座つていれば、社宅に出入する人たちをみることができ、肩叩きにくる者など直ぐ見破られてしまう。

出入する人たちは「ヤア」といつて手を上げて通る。或る主婦は「一声をかけて通つてくれるとやつぱり元気が出ますね」と笑つていた日ごろから家族ぐるみ分会ぐるみの闘争を目標に、活動がつづけられていただけに、闘争本部を取巻く雰囲気も何となく力強さを感じさせる。

【写真は急ごしらえの新港闘争分所】

一、二番方は組合員五名、主婦五名の十名の人たちがつめかけており、夜間になると組合員たちばかりで人数も倍加されている。

この分会からは、さきの爆薬弾圧では逮捕者を出した。ところが地域分会では、既に弾圧にそなえて以前から対策を立て学習などひんぱんにおこなつていたため、底力は美事に発揮され、時を待たず分会員、主婦が動員された。警官への抗議をはじめ、連行されるまで二時間も遅らせて、全員で労働歌を合唱して送つたものである。

いご闘争本部内に宿泊するようになつたが、これには各家庭からつぎつぎと夜具が持ちこまれ、分会役員たちを感激させたという、美しい仲間愛もいかんなく発揮している。

映画
へップ・バーンの新しい魅力を打ちだした
尼僧物語

【ものがたり】　ガブリエル・バン・デル・マルは、かつて自分が結婚しようと思つていたジャンから贈られた貴金属飾りの鉛筆だけもつて修道院入りした。

ガブリエルは、この新しい生活に順応して行こうと、悲壮な努力を続けた。彼女のつけている「良心手帳」には絶えず自分を責める言葉が書きこまれた。「私は同僚の人々に、冷やかだつた。ドアを音をたてて閉めた。父の声を忘れられない。食事と食事の間に許可なく水を飲んだ。あてもない考事をした。」

こうして、ガブリエルは昇習尼シスター・ルークとなり、次の一年間、正式の尼僧になるための修業を続けた。

尼僧の誓いを済ませた彼女は、熱帯医学の学校にやられる事を、マザー・エマニエルから告げられた。

学校では、シスター・ルークはめざましい成績で、医学の訓練は終つたものの、自分が希望したコンゴ行のグループには加えられず、首都ブリュツセルの近郊にある精神病の療養所へ看護尼として派遣された。そこで、マザー・クリストフがルークを案内した色々な精神病患者がいた。大天使と呼ばれている美しいプロトン娘イに代つて、患者の監視に当つたが、そのうちに、独房の大天使に声をかけられ、水を所望された。用心してドアを閉めにあけて、コップを渡そうとしたのだが、ルークは忽ち手首をつかまれ、独房の中へ、ひきずりこまれた。

危い所を、ようやく逃れたルークは急いで非常ベルを押した。シスター・マリイがかけつけて来て救援をはがれたルークを助け出した。

漸く念願かなつて、シスター・ルークはコンゴに派遣される事になりシスター・オーグスティンと共に出発した。（四日からセントラルで）

新聞代値上げは違法だ
総評・消団連などが訴訟

全国消費者団体連絡会（会長中林貞男氏）日本生活協同組合連合会（会長賀川豊彦氏）総評（議長太田薫氏）の三団体は十月二十一日東京地裁にたいして、新聞代一斉値上げ問題について「公正取引委員会が八月十三日消団連の提訴を審判に付さない旨決定したのは無効である」と、公取委の決定取り消しを請求する行政訴訟をおこした。相手は公正取引委員会（委員長佐藤基氏）と国（井野法務大臣）

新聞購読料はさる四月約二割の大幅値上げが抜き打ちに一斉に行なわれ、これにたいして消団連では値上げ分不払い運動を起すとともに「値上げは各社間の共謀で行なわれたもので独占禁止法違反」として公取委に提訴したが、公取委は「独禁法違反ではないから審判に付さない」と値上げを認める決定をした。こんどの行政訴訟は、(1)一斉値上げは独禁法違反(2)公取委の決定は事実誤認、法解釈適用を誤つた違法なものであることをついている。

なお三団体では、不払い運動はさらに継続し、新聞社側の違法行為の摘発、新聞社への抗議などの大衆行動をさらにひろげていく。

救援カンパ
第一次分が集約さる

総評では中小炭鉱失業者と併勢湾台風による被災者にたいする「助け合い」運動をすすめている。いま第一次のカンパ運動がおこなわれているが、三鉱労組でも地域分会・主婦会が各地域で集約したが現在米十俵（四斗カマス）とカンパ金三五・一八二円が本部へ集約されている。

中小炭鉱失業者には筑豊の仲間たちに送られることになつており、台風被災者には伊勢湾台風でやられた被災地のうち、政府から災害救助法の適用をうけている名古屋周辺を除いた、救助法の適用をうけていない地区へ送られることになつている。

（写真は本部へ集つてくる救援カンパ米）

（上）三輪車で本部へ運ばれるカンパ米
（下）寄贈の分会旗

分会旗寄贈
革分会の古賀さん

緑ガ丘すみれ分会にこのほど、特大の分会旗が寄贈されたが、闘いの最中でもあり、分会員たちを新たな闘志にふるい立たせている。この分会旗を寄贈されたのは同分会内に住む古賀卯三郎さん。

古賀さんは昨年まで三川鉱で働いていたが、停年で二男を入替採用され、いまでは家族人として静かに暮しているが、組織の存亡をかけた闘いに組合が突入しているとき何とかいままでにお世話になつたお礼をしたいという気持ちがこの分会旗寄贈となつたものである。この分会旗はふつう掲揚台に掲げる分会旗より一周り大きく、これと同じ大きさのものは本部で行進のとき先頭に広げて進むのにつくつているのがあるのと同じである。

闘争本部内の正面に所せましと張られ、闘いの空気を室内に充満させている。ちなみに古賀さんの長男も、現在三川鉱で働いているがあの一一三日闘争では、解雇拒否組としてさいごまで踏みとどまり闘い抜いた労働者である。

なお、この古賀さん寄贈の旗とともに、いま闘争本部には「カツプ」が掲げられているが、これも同分会内の木木さん（現在停年退職中）が昨年寄贈されたもので、地域対抗のソフトボール大会などに貢献している。

〃ひのき〃より

ひのき町地域分会で発行している機関紙〃ひのき〃では、「声」欄を設けて投書をつのつているが、十月号では、つぎのような「マイク」「オートバイ」などについての声があります。ひのき分会だけでなく、こういう問題は各分会でも多かれ少なかれあるのではないかと思いつぎに転載してみました

「マイク」に対する註文

○よくわからない
○余り早口でいわず、句切りをつけて欲しい。
「オートバイ、スクータ」の件
○社宅内の乗入れは遠慮して貰いたい。
○交替者の睡眠に困る。
○他人のことを自分のことに考えて注意していただき、大道に出てから乗り降りをしてください（一主婦）

訂正

前号〃みいけ〃三面中、「好評の放送劇・すみれ分会で放送」とあるのは、ひのき分会の誤りでしたので訂正いたします。

海（外）（より）
ゼネストで賃上げ獲得

【KNA】ブエノスアイレス発タス、新華社電によると、アルゼンチンの全属労働者三十万は過去四十四日にわたつて賃上げ要求のゼネストを行なつてきたが、七日夜基本的要求を勝ちとつてスト中止した。ストは官庁の凶暴な弾圧にもかかわらず、全国の勤労者の支持のもとに整然と闘われた。このため経営者は労働協約交渉の基礎として九〇〇ペソ（約三千五百円）の賃上げを認めざるを得なくなつた。

また繊維労働者約十二万のストは三週目をむかえた。私立病院の従業員は八日から無期限ストに入り食料品工業の労働者も賃上げを要求してスト体制に入つている。

ブラジルのコーヒー労働者も

【KNA】リオデジャネイロ発新華社電によるとサンパウロ市の運輸労働者、コーヒー包装労働者、サントス港港湾労働者ら一万五千名は十三日からストライキに入つていたが、十四日勝利のうちに終結した。運輸労働者の賃上げ、九時間労働制、団体協約調印の要求は解決され、新協約は試傭期間を九十日に制限した。これによつてサントス港の四十の倉庫と六十のコーヒー輸出商の倉庫業務が再開された。

伊炭鉱労働者七十二時間スト

【KNA】ローマ発新華社電によるとイタリアの炭鉱鉱山労働者は十二日、賃上げ要求をおりこんだ新団体協約締結を経営者側が拒否したことに抗議して二十二時間ストに入つた。このストは炭鉱、鉄鉱山、水銀鉱山の労働者をまきこみ、各派の労働組合が共同歩調をとつている。